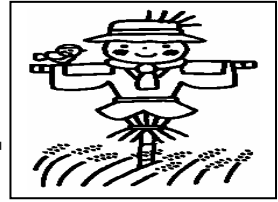


2008 年 秋号

ぷらう 39号



発行：TEACCH プログラム研究会

会長のつぶやき

TEACCH プログラム研究会会長 内山 登紀夫
(よこはま発達クリニック)

最近の発達障害関係のセミナーがとて増えました。TEACCH 関連のセミナーも 10 年前とは比較にならないくらいに増えました。TEACCH 部のスタッフは世界中からセミナーに招待され、スケジュールを調整するのが大変なようです。それにも関わらず日本に多くの TEACCH 部スタッフが来てくださるのは大変ありがたいことです。

むろん TEACCH に限らず、応用行動分析やソーシャルストーリー、SST、その他いろんな療育方法のセミナーが沢山開催されますし、医師向けには発達障害とくに ADHD を対象にした薬物療法のセミナーが増えました。

このように勉強する機会が増えることは結構なことなのですが、診断や発達障害の概念といった基礎的な内容のセミナーはあまり多くないような気がします。

現場の人たちは「今日から役立つ」的な実践的な知識や技術を欲しているのだと思います。実際、概念や診断の話は人気がありません。教師や福祉施設の職員の中には診断名はいつでも良い。診断は医者ができるもので、医学的には重要なものかもしれないが、支援のためにはそれほど重要ではないという断言する人もいます。そういう意見の人が支援者としての能力はとて高かったりもします。もし、そうであれば、「診断」はどうでもいいのでしょうか？

T 研の会員ならご存じのように TEACCH では診断を重要視し、診断を支援に活かすことを強調します。そもそも TEACCH は自閉症(スペクトラム)のための組織ですから、自閉症でなければ支援の対象ではありません。自閉症に特化した専門家集団であり、支援の方法を考えると、「自閉症の特性から考える」という視点を大切にします。皆さんの職場で、本家の TEACCH 部のように支援の対象を自閉症に限定している所は多くないと思います。自閉症の人も ADHD の人も知的障害の人も、施設によっては身体障害の人や精神障害の人も支援していることが少なくないでしょう。では、そういった自閉症に特化していない職場では自閉症の診断は重要ではないのでしょうか？

Wing 先生は、たとえ自閉症に特化したサービスが何もないところでも、自閉症という診断は重要だと言っています。メジボフ先生も参加されたセミナーで、この話を引用したところメジボフ先生も強く同意すると仰っていました。

診断は将来を見通した支援プランを考える際に非常に重要ですが、あまり重要性が認識されていないように思います。

問題の一つは診断する側の医師の考え方や診断の方法がバラバラだということでしょう。

医師や病院によって診断名が違うことが多いという実態があります。A 病院では ADHD だといわれ、B クリニックではアスペルガー症候群といわれ、C 療育センターでは精神遅滞といわれた。いったいどれが本当だ！といった具合です。

このように医師や病院によって診断(名)が違う以上、診断を支援に活かすといわれても困ってしまうでしょう。医師個人の能力も関係しますが、自閉症の見方が専門医のなかでもまだ統一されていないといった事情もあるようです。どこの国でもそうですが、クリニックで診断する立場の医師には現場の情報が届きにくく、クリニックと現場で重要な情報を共有し難いといった事情も関係していると思います。では診断を正しく行い、診断を支援に活かすにはどうしたら良いでしょう？

TEACCH 研には医師会員も大勢いますから、T 研の医師を中心に TEACCH で行っているような診断の考え方(TEACCH と同じように複数のスタッフが長時間かけて診断するのは医療制度の違いから難しいです)を広めていくのも一つの方法でしょう。

また現場の人たちが疑問に思ったことは医師側にフィードバックしていくことも有用なのではないかと思えます。十分に情報を共有するためには時間も手間もかかりますから、容易なことではないでしょうが、やってみる価値はあると思えます。

第 15 回トレーニングセミナー(トレセミ)のご報告

石川トレセミ実行委員長 小坂正栄

自閉症の子どもたち・自閉症の人たちやご家族に明るい未来と学びやすい学校・暮らしやすい地域、生きやすい社会となるように支援者が学びあう為のトレーニングセミナーが、石川県金沢市で以下の通り行われました。アメリカで始まり、世界各国で広がった TEACCH プログラムですが、日本でも 1989 年以降各地で行われてきました。「石川でそんなトレセミができるなんて本当？信じられない」思いの中、石川支部谷中理事の「面白そう！」という一声で準備が始まりました。



1. 会 期:平成20年8月22日～24日3日間 (8月21日会場準備)
2. 場 所:アリス国際学園
学校長の快いご理解と理事長をはじめとする職員の方々のご協力で会場をお借りました。
3. トレーナーおよび講師 諏訪(プログラム・ディレクター)・野畑・新澤・緒方・小坂 以上5名
4. 申込資格:自閉症児・者の治療、教育、福祉に携わる専門職で TEACCH プログラム研究会会員対象。
5. 定 員:20名(4グループ)
北海道・広島・三重・名古屋・大阪等 全国各地からお集まりくださいました。
尚、キャンセルがあり、補欠だった方の繰り上げ受講、及び急なキャンセルには、スタッフが受講させて頂くなどのアクシデントもありました。

2001年に有志で行われた佐々木正美先生の講演会から始まり、翌年に立ち上がった石川支部です。3人のつばやきが 11 名になり・・・20 名になり・・・現在330名の会員となりました。

全国の支部の中でも設立が新しく、会員数こそ 大所帯ですが、実際に運営する者はそう多くはありません。トレセミをするにあたり、実働するスタッフをどうするのか・会場は？費用は？等々、準備当初は漠然とした不安で一杯でした。小児科医横井会長とアリス国際学園学校長との出会いで、保育科・介護福祉科・日本語学科がある上記の専門学校をお借りできたことは、大変ありがたいことでした。

費用は、他の支部の方々のご意見を参考に、トレセミの為の資金を意識した講演会活動を前もって行い、準備しました。一つ一つ、実行委員全員で考え・悩み・力を出し合って目標に向かって行きました。会を重ねる度にそれぞれの役割が明らかになり、必要なことやその準備をそれぞれが考えて、形にしていく・そんな動きが生まれてきました。中学生の文化祭のテーマのようでくすぐったいのですが『一人がみんなの為に。みんなが一人の為に。』そんなフレーズが浮かびあがるような実行委員の仲間であることに誇りを感じました。石川支部のスタッフは多職種です。親御さん・医師・保健師・言語聴覚士・特別支援学級教員・特別支援学校教員・保育士・指導員等々が、それぞれの多忙な業務の中、時間を割いて、心を割いて、トレセミを迎えました。前日・当日はアリス国際学園・金城大学・石川県立保育専門学校専攻科の学生・一般のボランティアの方にも支えられ 40 人ものスタッフと 20 名の運営委員で行うことが出来ました。名古屋通信工業様・看板のアド株式会社様にもご協力を頂きました。また、会場は市内の為、公開講座の方の駐車場の確保にも頭を悩ませました。併設する健康センタークオレや、金沢市富樫教育プラザのご協力で駐車場をお借りし、金沢手をつなぐ親の会のバスを受講生の方の送迎にお借りすることも出来ました。

トレセミ終了後に 残ったものは、疲労感ではなく、みんなで成し遂げた充実感と、明日への活力であったと実感できました。そして、受講生だけでなく、スタッフそれぞれも 自閉症の方の特性とその支援に対する理解を深め、また新たなスタートに立つことが出来ました。

受講生の方々が寄せてくださった感想では『石川の活力を貰えた』『生まれ変わる気がした』等、余りある言葉を頂きました。協力児4名、待機児2名とそのご家族、そして諏訪先生はじめとして、トレーナーの先生方に、心からの感謝とトレセミのチャンスをくださいました本部と会員の皆様に心からお礼を申し上げます。これからも全国各地でトレセミが開催され継続されてゆくことを心から願い、ご報告とさせていただきます。

皆様 本当にありがとうございました。

平成20年度 第2回理事会報告

日時：平成20年7月12日(土) 13:00～16:00

会場：ハートピア京都

参加理事：内山、村松、諏訪、新澤、宇山、榎原、岡田、辻、谷中、中村、井上、野畑、大西、藤田(草原代理)、緒方(内田代理)、進藤、遠山(丸目代理)、竹内、南前 欠席理事：浅井

議題1. 石川トレセミ準備の進捗状況について(谷中理事)

教材や会場準備、スタッフやトレーナー、講師らとの打合せ状況について説明され了承された。

議題2. 次回のトレセミ開催支部について

第1候補は愛知支部に。正式には21年度の第1回理事会にて決定することになった。

議題3. コラボレーションセミナーのまとめと次回に向けての検討(村松理事、野畑理事)

- 1) 今回の事業内容についてアンケート結果も含めて報告された。
- 2) 収支報告を野畑理事よりなされ、承認された。
- 3) 次回の開催にむけて開催地と時期、テーマ、講師について話し合った。

議題4. 第9回実践報告大会について(遠山理事)

- ・テーマ 「連携システムづくりを考える～現状と展望～」
サブテーマ ①学校の実践 ②家庭との連携 ③成人期の実践
- ・講師 新澤 伸子氏
- ・日程、内容、予算は資料配布により、了承された。

議題5. ぷらう秋号について(遠山理事)

ぷらう 39号(2008年秋号)の内容について了承された。

議題6. 監事担当の変更(事務局)

岡 美智子氏(京都支部)に代わり水野 敦之氏(佐賀支部)担当となることが了承された。

議題7. 新支部立ち上げの会則改定について

いままでの理事会で新支部立ち上げについて話し合いが続けられてきたが、その結果、立ち上げ要件に新たに加わったものがあり会則を改定することとなった。くわしくは総会にて提案する。

議題8. 土倉事務所とのやりとりについて(事務局)

新入会員の入会手続きについて、一部変更をお願いした。

議題9. その他

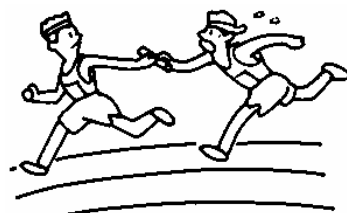
- ・新澤理事が平成20年度をもって、常任理事を退任されることとなった。
- ・平成21年度第1回理事会は、平成21年2月14日 午前10時よりパレアにて開催。

平成21年度総会のご案内

平成21年2月15日(日)
第9回 実践研究大会 2日目
午前11:15 より 約20分程度
パレアにて

☆会員皆様の大事な会費が有効に活用されているか、全国組織としての活動状況はどうか
どうぞ一緒にご確認ください。
今回は一部会則改定の提案もあります。

列島リレ〜



福岡支部

福岡支部 理事 内田博昭
社会福祉法人のぞみの里 そよぎ今宿

こんにちは、福岡支部です。現在の会員数は、129名でそのうち約6割が職員関係者、約4割が保護者です。

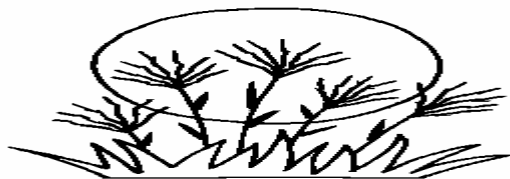
福岡支部は、今から約16年前に発足しました。当初は、会員全員が事務局みたいなもので、皆でどのような活動をしようか話し合っ、PEP-Rの勉強会やミニトレーニングなどの活動を行っていました。

会員が増えるにつれて、定例会を持つようになり、一時期は、保護者と職員とではニーズが異なるということで保護者部会、職員部会に分かれて定例会を持っていました。その後、一本化しましたが、今度は、新規の会員は基礎を学びたい、ある程度勉強してきた会員は、実践的なものを学びたいということで、基礎コース・実践コースに分かれました。しかし、年々参加者が減少してきたため、再度、定例会を一本化しました。

そして今年度から、毎月1回行ってきた定例会の回数を減らし、「自閉症スペクトラム実践研修会」という名称に改め、アドバイザーの先生を呼び、実践報告を中心に研修会を行うようにしました。

現在の悩みは、事務局体制です。事務局の入れ代わりがほとんどなく、職員関係者が中心に行っているため、仕事が忙しく、なかなか話し合いが持てないことと、ミニトレーニングセミナーのような大きな活動が計画できないことです。

これを読んでいる福岡支部の皆さん、是非事務局のお手伝いをしてください。そして、福岡の自閉症者に対する支援の向上にお力をお借りできればと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。



神奈川支部

神奈川支部副代表 辻 裕二

11年目に突入！

神奈川支部です！昨年めでたく10周年(支部代表の諏訪さんがたぶん10周年らしいというので)をむかえました。内山先生に来ていただいて記念講演も行なわれました。

今年は11年目、新たなスタートを切りました！毎月基礎コースと応用コースに分かれての地道な活動は続いています。基礎コースでは諏訪さん他スタッフによる基礎的な講座が開かれています。毎回初めて参加される方がたくさんいて、まだまだ裾野を広げる必要があります。最近では特例子会社やジョブコーチの方たちが参加されるようになりました。諏訪さんの話はいつも原点にもどることができる素敵な話です。一番聞きたがっているのは運営しているスタッフだったりします。

応用コースでは、実践報告を中心に保護者から、学校現場から、福祉の現場からゲストを迎えて、有意義な時間を過ごしています。また、2つのコースのメンバーが集まって共通で学ぶ時間もあります。ノースカロライナの最新情報などなど、魅力的なお話が聞かれます。神奈川は近くに第一級の先生方がいらっしゃるののでめぐまれているなというのが実感です。

現在スタッフ会議では来年以降の新企画が進んでいます。支部会員にフィードバックできるような素敵な企画になる予定です。楽しみにしてください。



TEACCH研 HP

ホームページをいつもご覧になっていただき、ありがとうございます。秋以降は2月に熊本で行なわれる実践研究大会のご案内やこの夏に石川で行なわれたトレーニングセミナーの様子を報告してゆきたいと思います。

ホームページアドレス <http://www.teacchken.com>
会員専用ページパスワード HJMSPNU
(大文字でエイチ ジェー エム エス ピー エヌ ユー)

会員パスワードは「ぶらう」発行ごとに変更してゆきます

第9回 TEACCH プログラム研究会実践研究大会 in 熊本へのご案内

第1号通信(参加者募集および実践報告募集について)

爽秋の候、会員の皆様にはご健勝のこととお喜び申し上げます。

TEACCH プログラム研究会では、第9回実践研究大会を下記のとおり熊本で開催することになりました。テーマは本年1月のコラボレーションセミナーにおけるジョン・ドカティー先生の講演を受けて「連携システムづくり」としました。日ごろの実践を持ち寄って話し合い、今後への励みとなる会にしたいと思っております。会員の皆様の多数のご参加をお待ちいたしております。

なお、分科会での実践報告ご希望の方は、各支部事務局を通して熊本支部へお申し込みください。

記

1 大会テーマ「連携システムづくりを考えるー現状と展望」

2 日程および内容(予定)

2009年2月14日(土)		2009年2月15日(日)	
13:00 受付	13:30 開会式	9:00 受付	
13:40	I 基調講演「地域における発達障害者の支援システムの構築～現状と展望」 講師 新澤伸子先生(アクトおおさか)	9:30	実践報告と意見交換 分科会①「学校の実践」 分科会②「家庭との連携」 分科会③「成人期の実践」 (内容は大会テーマに限定しない)
15:30	II 実践報告「地域療育システムの実践」 報告者 坂本友昭先生 (熊本県こども総合療育センター)	11:15	TEACCH プログラム研究会年次総会
17:00	終了*18:00～交流懇親会(希望者のみ)	12:00	終了

3 会場 くまもと県民交流会館パレア(熊本市手取本町 8 番 9 号 テトリアくまもとビル 9・10F)

TEL:096-355-4300 E-mail:parea@pref.kumamoto.lg.jp

熊本駅から市電またはバスにて 18 分「水道町」又は「通町筋」下車

熊本交通センターから市電またはバスで 7 分「水道町」又は「通町筋」下車

阿蘇くまもと空港から空港専用リムジンバスで 40 分 「通町筋」バス停下車

4 主催 TEACCH プログラム研究会

5 参加資格及び参加定員 TEACCH プログラム研究会会員 申し込み先着150名

* 会員外の参加はできません。必ず各支部に入会手続きをしてからお申し込みください。

6 参加費 6000円 交流懇親会費(希望者のみ) 6000円

7 参加申し込み方法 参加申込書(別紙)に氏名・住所他を記載し80円切手を貼った返信用封筒を同封の上、下記へ送付してください。(内容不備の場合は手続きができませんのでご注意ください。) 先着順にて受付の上、参加証、会場の地図、参加費入金手続きのご案内を送付いたします。電話、FAX、メール等での申し込みは受け付けられませんので、ご了承ください。

* 実践報告発表申し込み〆切 2008年 11月 30日(日) 当日消印有効

* 参加申し込み〆切 2008年 12月 17日(水) 当日消印有効

ただし、定員に達した場合はその時点で締め切ります。

* 送り先 〒861-1103 熊本県合志市野々島2774-4

野々島学園内 TEACCH プログラム研究会熊本支部

8 問い合わせ先 大会事務局 TEACCH プログラム研究会熊本支部(遠山)

FAX 096-242-6813

E-mail nonoshima@sirius.ocn.ne.jp * FAX、メールのみでお問い合わせください。

第9回 TEACCHプログラム研究会実践研究大会 in 熊本 参加申込書

氏名(ふりがな)	所属支部	
所属		職種
勤務先住所	電話・FAX・E-mail	
自宅住所	電話・FAX・E-mail	
分科会についてお尋ねします。 実践を報告してみたいというご希望がありますか？	あり ・ なし	
<p>「あり」と答えた方 報告したい実践の概要をお書きください。</p>		
「なし」と答えた方 参加分科会はどこですか？	分科会1 ・ 分科会2 ・ 分科会3	
交流懇親会参加希望	参加します ・ 参加しません	

* 実践報告の希望者には、実行委員会より別途ご連絡をさせていただきます。
ふるってご参加ください。